

厚生労働科学研究補助金（労働安全衛生総合研究事業）  
「職域での歯科口腔保健を推進するための調査研究」  
～事業場および事業場外資源での推進事例を把握するための現地調査～  
ヤクルト本社中央研究所の事例

分担研究報告書(令和4年度)

分担研究者 澁谷 智明 (株)日立製作所京浜地区産業医療統括センタ

研究要旨：

令和2年3月に「事業場における労働者の健康保持増進のための指針（いわゆるTHP指針）」が約30年ぶりに大幅な改正が行われ、職場における歯科口腔保健指導についても、明確に位置付けがされるようになったが、職場における歯科口腔保健サービスについては、まだ手付かずの場合も多い。そのため普及定着に向けての取組を進めるためには、いままで先駆的に進められた取り組みを事例集としてまとめるための調査研究が必要となっている。そこで、今回ヤクルト本社中央研究所の歯科口腔保健事業のヒアリング調査を行った。長期にわたり歯科健診を行ってきた結果、従業員は医科の健診と別日であっても、高い割合で歯科健診を受診していた。また、8年前から歯科保健指導を日々のセルフケアの向上に力を入れた行動変容型に切り替えたことにより、従業員の口腔内のセルフケアの意識が高まり、口腔の健康だけでなく、全身の健康への効果も高くなっている可能性も考えられた。

A. 研究目的

「職域での歯科口腔保健を推進するための調査研究～事業所での推進事例を把握するための事前調査（歯科医療関係団体及び医療保険者、産業衛生学会等関係者）～」により得られた事業場及び事業場外資源についての調査結果等を踏まえ、現地調査の対象となる事業場を選定し、ヒアリングによる現地調査を実施する。現地調査により得られた結果をもとに、事例集策定のための知見を収集する。

B. 研究方法

1. 研究対象者の選定方針

<選定基準>

原則 2018~2020 年度までの 3 年の間、  
歯科口腔保健に関する指導を含め事業所

での歯科口腔保健に関するサービスを継続的に行っており、今後 THP 指針に基づく事業の実施予定のある事業場、またはこれと同等と認められる対応がなされている場合をヒアリング調査の実施対象となる事業場とした。その中で今回、ヤクルト本社中央研究所をその 1 つに選び、こちらで作成したフォーマットで事前に情報を収集した後、2022 年 11 月 7 日に現地にてヒアリング調査を実施した。なお当事業所は健康経営ホワイト 500 を取得している。

2. ヒアリングの主な内容（ヒアリング前

の情報収集を含む）

（主な事前収集資料）

- 1)企業の基本情報（業種、平均年齢、就労者数、事業所内スタッフ）
- 2)歯科口腔保健指導や健康相談、歯科健診に関する事業の内容等がわかる資料（ヒアリングの主な内容）
- 1)歯科口腔保健に関する事業の詳細と取り組みのきっかけ
- 2)実施している歯科口腔保健に関する事業や取り組みの概要
- 3)社内、社外での体制の構築
- 4)取り組みの計画作成、実施内容、結果の評価
- 5)実施している事業の費用等
- 6)その他（取組で苦労した点、取組を成功させるためのポイント等）、とした。

## C. 研究結果

### 1. 事業所の基本状況

事業としては研究事業であり、従業員は約360名(平均年齢45.3歳)であった。常勤の産業保健スタッフは保健師1名と少ないが、健康保険組合と上手く連携しながら産業保健活動を行っていた(表1)。

### 2. 歯科口腔保健事業に取り組むことになった背景や課題

歯の健康は全身の健康を左右することから、8020運動の提唱を受けて、健康保険組合の保健事業として、巡回型歯科健診が1999年(平成11年)から開始された。2014年度(平成26年度)をもって健康保険組合と契約していた歯科

健診業者との契約終了となったことから、新しく歯科健診業者を選定するとともに、疾病発見型の歯科健診から行動変容支援型の歯科健診へと健診内容が変更となった。2020年度と2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、健診内容が縮小されたため、2022年度に更なる健康増進に向けて、健診内容の見直しを行っていた。

### 3. 取り組みについての方針の表明(社長メッセージ等)

“企業理念”「私たちは、生命科学の追及を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します」を実現するためには、従業員の健康保持・増進が不可欠であることから、「従業員の心身の健康保持・増進および安全・安心な職場環境づくりに努める」といった宣言を出している。

### 4. 体制構築の方法

事業場内の体制としては保健師1名で、事業場外資源では健診業者を活用していた。なお、人事のスタッフは3名(総務課)で衛生管理者は2名であった。

### 5. 取り組みの実施計画

a.計画の概要(目的):健診事業の継続により、歯の健康意識の向上をはかる。

b.計画の年間スケジュールや、他の社内事業・行事との関連等として、「1月頃:歯科保健事業の申し込み 3月頃:日程調整 6月:巡回による歯科健診の実施 7月:支払い 8月:健康保険組合へ補助金申請」となっていた。

c.事業の実施目標として、歯科健診受診者数200人/年を目標としていた。

### 6.取り組みの具体的な内容

「歯の予防健診」として、6月に2日間(全身の健診とは別日)、会議室を利用して巡回による健診を歯科衛生士5~6名で行っている。参加者は女性の比率が高

く 2022 年度より、咀嚼力低下が生活習慣病発症につながることから、咀嚼チェックガムによるチェックを追加した。

健診内容としては、歯科衛生士による口腔観察、口腔保健指導、咀嚼チェックガム(2022 年度から)、歯科グッズの配布およびその場でのフィードバックを基本 15 分間で行っていた(図 1~9)。一方、新型コロナウイルス感染症により、1) 歯面清掃、2) 歯垢の染め出しや歯みがき支援、3) 歯周ポケットのチェックなどは行わなくなった。

なお、新型コロナウイルス感染症が流行していた 2020 年と 2021 年も、健康相談としての歯科健診は行っており、その時からパーテーションを付けて行っている。この時から従業員も出勤して研究、在宅でデータ整理と業務を上手く使い分けしているとのことである。

#### 7. 取り組みの効果(結果・評価など)

歯に対する健康意識の向上、疾病の早期発見を目的に実施し、200 人以上の受診を目標に毎年達成していた。1999 年度～2014 年度までは、歯科医による疾病の早期発見を目的として、また歯科衛生士による歯石除去を行っていたが、2015 年度からは、歯科衛生士による歯科保健指導を中心に、日々のセルフケアの向上に力を入れた指導に切り替えていた。また、2021 年度から「歯の予防健診」と名称を変更し、予防を目的としていることを強調していた。さらに 2022 年度から従業員が健康投資の自覚を持つことを目的に、受診者本人に少額の費用負担を課すことにしたためか、受診者数 177 人(表 2)に減少し目標に届かなかった。

#### 8. 取り組みを成功させるためのポイント

「会社での歯科健診を継続することで、健診そのものが従業員の認識として定着していることが大きい」と考えていた。

#### 9. 取り組みを実施する際に苦労した点

長く歯科健診を実施してきたことにより、健保財政が豊かな時の充実した歯科健診のイメージが強く、歯のすっきり感を求める要望が強かった。そのため歯石除去を止めたことへの不満は、健診内容変更して 8 年経過しても根強く残っている。しかしながらセルフケアへの意識が高まり、健診時に質問をする従業員が増えている。そして 歯石除去や治療は歯科医院で、歯科医院で質問できないことを健診時に質問をするように、従業員自身が上手く使い分けをできるようになった。なお、会社で無料歯科健診が受けられることへのメリットを感じている従業員が多く、少額でも自己負担に不満を感じていることがわかったとのことである。

#### 10. 同様な取り組みを検討している事業所(産業保健職)へのアドバイス

健康保険組合と連携をとっていくことが大切である。

#### 11. 取り組みに係った費用と内訳

1 人単価健診費用 4,300 円で、内訳は、健康保険組合による費用補助は 3,500 円、個人負担 300 円、会社負担は 500 円であった。また器材搬送、人件費、交通費などは約 100,000 円であった。

#### 12. 取り組みの実施に関して参考になった資料や URL があれば紹介してください。

歯科健診業者が、会社向けの動画を作成し、事業場内の案内板を用いて従業員へ案内し(QR コード付き)、歯科健診業者が作成したポスターも案内板や食堂に貼って利用していた。

#### 13. 改正 THP 指針に係る事業で、口腔保健以外に実施していることがあれば、記載してください。

健康保険組合の保健事業としては、1) ヤクルト健康 21 への参加呼びかけ、2) ヤ

クルト健保総合健診の受診促進、3)インフルエンザ<sup>※</sup>予防接種、婦人科がん検診の受診率向上などを行っていた。また、ヤクルト本社施策（健康経営）では、1) 婦人科がん検診の受診率向上、2) 健康講座への参加呼びかけや 3) ストレスチェックなどを実施していた。

追加資料から（表2、）

#### D. 考察

今回、ヤクルト本社中央研究所のヒアリング調査を行った。歯科関係者はいないが、常勤の保健師が以前、健康保険組合所属であったことにより、健康保険組合と上手く連携をとって歯科口腔保健活動を長期にわたり行っていた。その効果もあり、医科の健診日とは別日に歯科健診が実施されているにも関わらず、高い健診受診率を維持できていた。さらに未治療歯や未治療者も非常に少なく、口腔内が良い状態に保たれていた（図1~4）。

以前は疾病発見型の歯科健診であったが、8年前から行動変容支援型の歯科健診へと健診内容が変更となっている。歯科衛生士による歯科保健指導を中心に、日々のセルフケアの向上に力を入れた指導に切り替えた効果もあり、従業員は歯みがき回数や歯間清掃用具の使用回数なども高く、良好なセルフケアが行われていること（図5~7）がわかった。また2022年度より開始したガムにより咀嚼チェックの結果から、「良く噛むようにして・何でも良く噛め・早食いしないように注意して」、良好な栄養摂取が出来ている従業員が多かった（図9、10、参考資料1）ことも歯科保健指導の効果と考えられた。また、全身状態が良好な従業員が多い（参考資料2）ことにも影響を与えている可能性が考えられた。

疾病発見型の歯科健診時には歯石除去も行っていたため、それを止めた不満が、

まだ根強く残っているとのことであったことは理解できる。一方で、行動変容型の健診に変えることで、従業員のセルフケアの必要性に関する意識が高まり、健診時に質問をする従業員が増えたことは健診を変更した効果が現れていることを示していると思われる。そして歯石除去や治療は歯科医院で行い、歯科医院で質問できないことを健診時に質問をするよう、従業員自身も上手く使い分けをできるようになったそうである。

一方、会社でグッズの提供を含めた無料歯科健診が受けられることへのメリットを感じている従業員が依然として多く、健康投資の自覚を持つことを目的に、受診者本人に費用負担を課すことに対しては、少額でも不満を感じていることであった。しかしながら、今後継続して行っていけば不満も徐々には減少してくるのではないかと考えられた。

#### E. 結論

今回ヤクルト本社中央研究所の歯科口腔保健事業のヒアリング調査を行った。長期にわたり歯科健診を実施していたこともあり、従業員は医科の健診と別日であっても、高い割合で歯科健診を受診していた。また、8年前から歯科保健指導を中心に、日々のセルフケアの向上に力を入れた行動変容型に切り替えたことにより、従業員の口腔内のセルフケア意識が高まり、口腔の健康だけでなく、全身の健康への効果も高くなっている可能性も考えられた。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
予定あり
2. 学会発表

予定あり

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし

表 1. 事業所の基本情報

a. 事業場の所在地（郡市区まで）	東京都国立市
b. 業種	その他の事業（研究業務）
c. 従業員数（非常勤含む）	約360人
d. 従業員の平均年齢	45.3 歳（小数点1位まで記載をお願いします。）
e. 事業場内の産業保健スタッフ	産業看護職（常勤） 1名、産業看護職（非常勤） 0名、人事労務管理部門スタッフ 3名、 <u>産業医 1名(非常勤)</u> ____名、____名、____名、 その他、関係するスタッフとその数を記載してください。
f. 活用している事業場外資源	該当する場合チェックを入れ、わかる範囲で名称等を記載してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ヤクルト健康保険組合 <input type="checkbox"/> 全国健康保険協会 支部 <input type="checkbox"/> 歯科医師会 <input checked="" type="checkbox"/> 地域の歯科医師又は歯科医院（特殊健診の歯科健診） <input type="checkbox"/> 商工会議所 <input type="checkbox"/> 産業保健総合支援センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（歯科健診業者）

表 2. 歯科健診の受診状況

組合名	ヤクルト健康保険組合					
事業所名	株式会社ヤクルト本社 中央研究所					
相談者数						
	実施人数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
男	94 人	7 人	33 人	25 人	25 人	4 人
女	83 人	12 人	22 人	18 人	25 人	6 人
計	177 人	19 人	55 人	43 人	50 人	10 人

区分	全体集計	性別	年齢階級	来談経験
	全体総集計	全体	全体	全体

図 1. 歯の状況（健全歯・要観察歯・処置歯・未処置歯の状態）

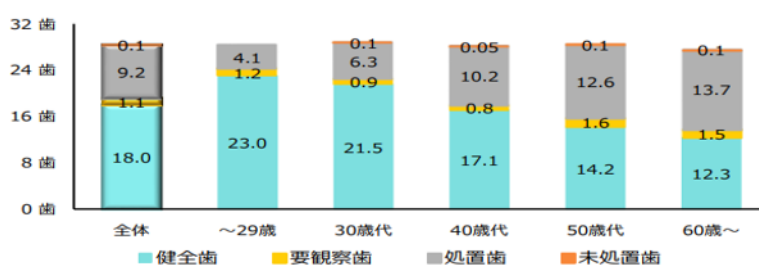


図 2. むし歯の治療状況

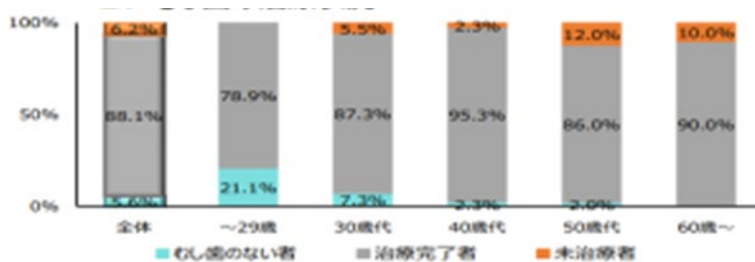


図3. 歯肉の状況

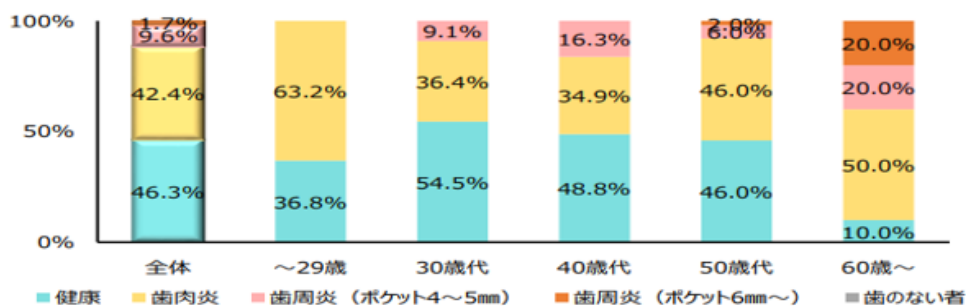


図4. 歯垢・歯石の付着状態の良好者

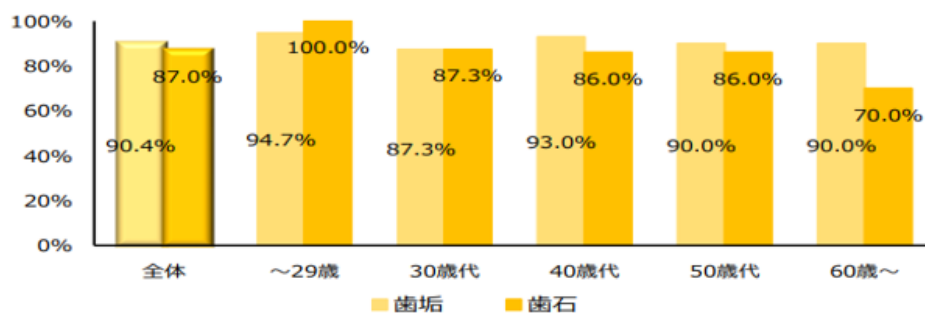


図5. 1日の歯みがき回数

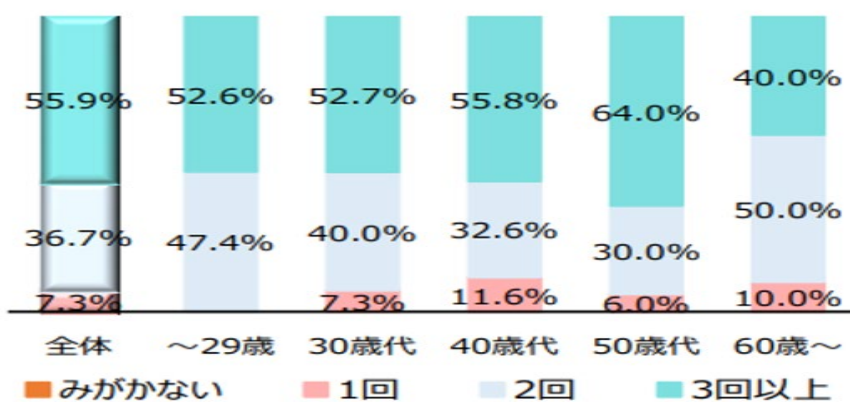


図6. 歯間部清掃器具の使用状況

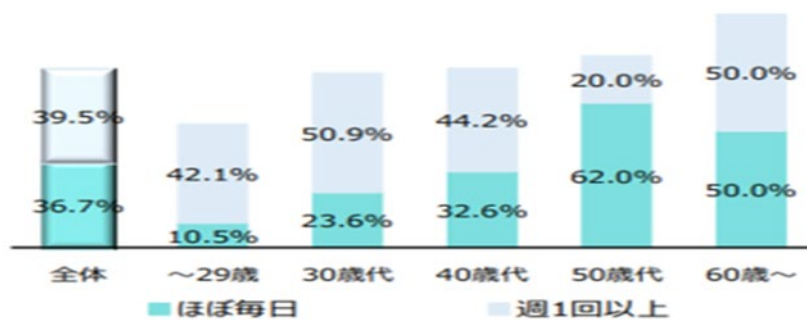


図7. 洗口液の使用状況

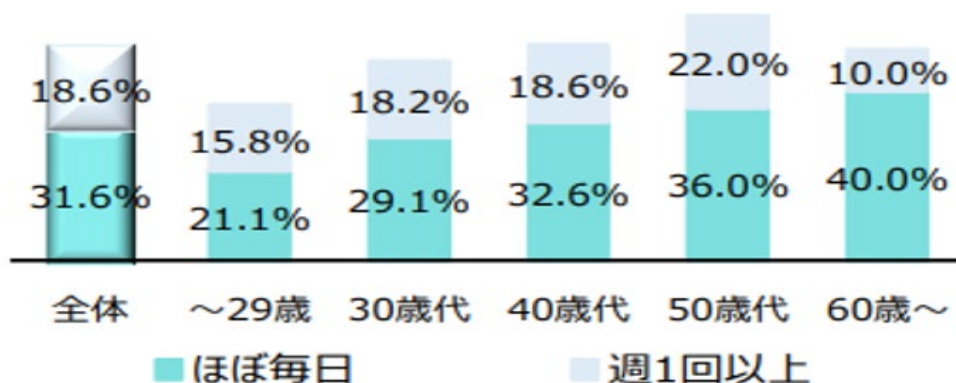


図8. 歯科健診の実施結果の状況

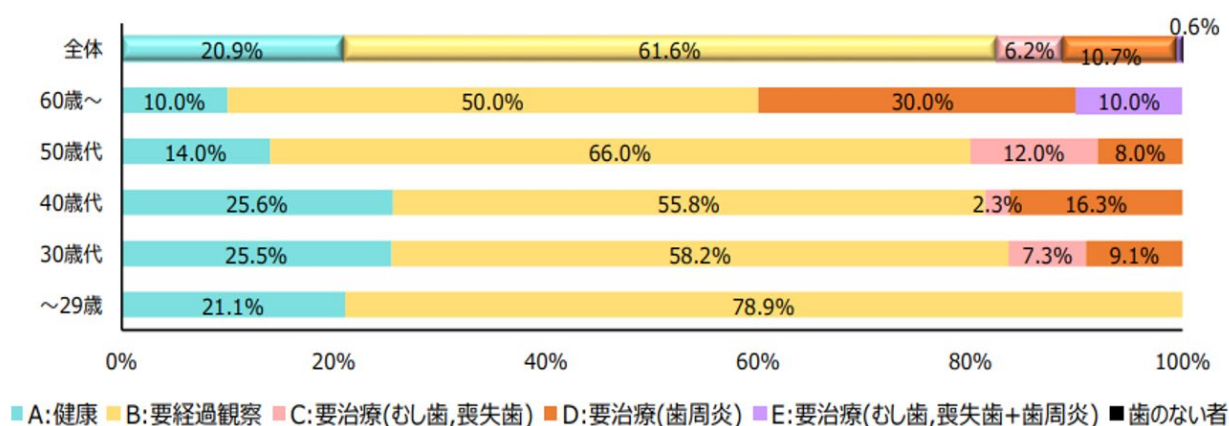


図9. 2022年度咀嚼ガムの結果について

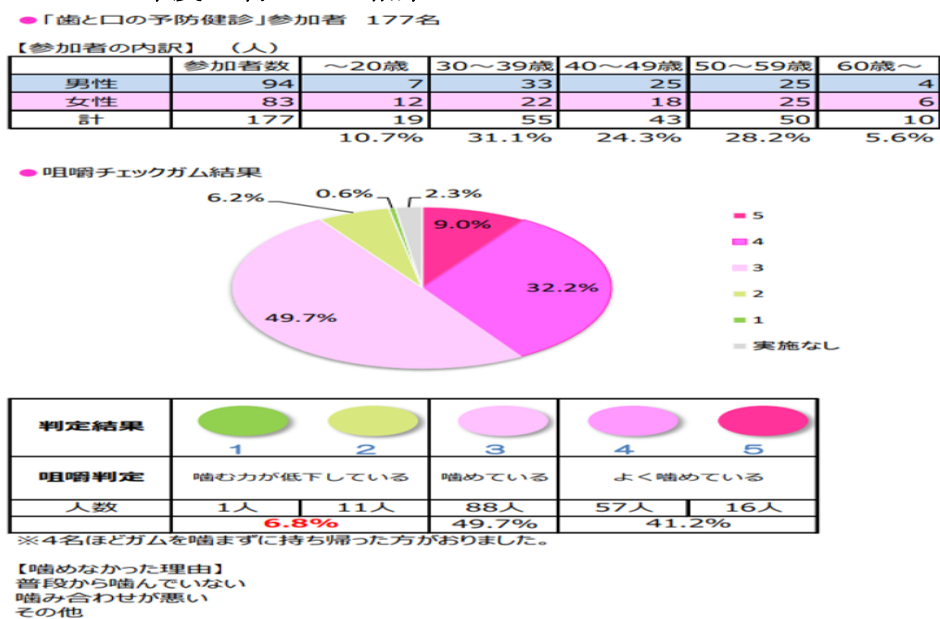
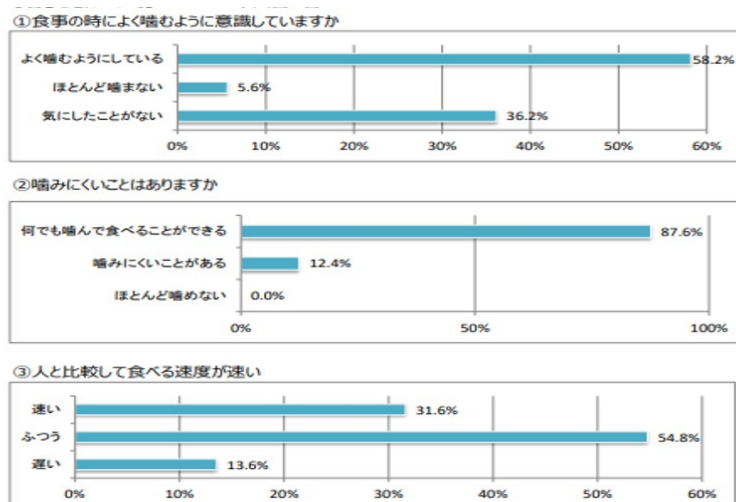




図 10. 噛むことについて



\*参考資料 1：食用摂取多様性スコア

④食品摂取多様性スコア (点数)			④食品摂取多様性スコア (項目)		
合計点数	人数	割合	食品項目	人数	割合
10点	23	13.0%	⑩油を使った料理	165	93.2%
9点	26	14.7%	⑨果物	96	54.2%
8点	35	19.8%	⑧いも	102	57.6%
7点	40	22.6%	⑦海藻類	93	52.5%
6点	27	15.3%	⑥緑黄色野菜	165	93.2%
5点	17	9.6%	⑤牛乳	103	58.2%
4点	5	2.8%	④大豆・大豆製品	137	77.4%
3点	2	1.1%	③卵	131	74.0%
2点	2	1.1%	②魚介類	134	75.7%
1点	0	0.0%	①肉	175	98.9%
0点	0	0.0%			
177			あなたの点数は? ----->		
平均 7.35					

\*参考資料 2：全身状態についての表

●問診

【全身状態について】

※未回答2名

	人数	割合
BMI25以上	21人	11.9%
高血糖	1人	0.6%
高血圧 (上130mmHg以上、下85mmHg以上)	18人	10.2%
脂質異常 (中性脂肪150mg/dL以上またはHDL40mg/dL未満)	32人	18.1%